

1 単元 Unit 5 Living with Robots—For or Against

2 指導観

- 本単元は、教科書ではロボットによる和太鼓演奏を紹介する新聞記事から始まり、ロボットと共に生きることに對する肯定的な意見、否定的な意見を出して議論することへ話が繋がっていく。他者の意見を聞き入れながら、自分の意見や考えを即時的に表現するためにはどうすればいいかを考えるきっかけとする教材として適している。そこで、本単元では都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論できるようになることをねらいとする。この活動を通して自分の意見や考えを英語で言える表現に言い換えながら即時的に話すための伝え方を身につけることができ、大変意義深いと考える。また、議論を行うということは自分の意見や考えを根拠や理由に基づいて話すということにつながり、この力を育てることは価値のあることであると考えられる。
  
- 本学級の生徒は、一学期までに自分のお気に入りの日本のポップカルチャーについての作文や、ALT への手紙など、「書く活動」を多く行っている。一方で「話す活動」は食事の会話の練習のみで重点的に行うことができていない。また、アンケートの結果から「話すことについて得意か苦手か」という問いに対して「苦手である」という生徒が 43%で、特に「準備をせずにその場で自分の考えや意見を即興で話すこと」は 86%の生徒が「苦手である」と答えている。このことから、他の生徒とやりとりをしながら、自分の伝えたい内容を英語で言える表現に言い換えて、即時的に話すことの学習が必要であることが分かる。
  
- 指導にあたっては、田舎と都市の生活について、即時的に話すことができるようになることを単元全体の目標とする。そのためにまず、JTE と ALT の対話を聞き、都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論することを確認し、単元全体の流れを把握させる。第一次に学習の方向性をつかめるように、ALT を交えて都市と田舎の生活を比較する話をする。次に、第二次では新出言語材料や、相手の意見を受けてから発言する表現を学習し、様々なテーマで議論をしながら即時的な表現を練習する。ここでは、単元の目標を意識できるように、新出言語材料を学ぶ際の例文は、都市と田舎の生活のどちらの方がいいかの議論に関わるものにする。また、教科書の内容と議論する時に使う表現が繋がるように、学習形態を工夫しながら何度も音読する。さらに、即時的に話すことに慣れさせるために、英語で言えなかった内容を言い換えて表現する方法を、全体で共有しながら議論をする。その際、学びの足跡を残すために、振り返りシートを用いて英語で言えなかった表現や、各授業で新しく学んだ表現を書きためていく。最後に、第三次に都市と田舎の生活のどちらの方がいいかを議論する。ここでは、議論の質を高めるために、終わった後に話した内容を書き出す場を設定し、それを繰り返して回数を重ねる。

3 目標

- 都会と田舎の生活のどちらがいいか自分の意見や考えを表現しようとする。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 都市と田舎の生活のどちらかについて、自分の意見や考えを英語で言える表現に言い換えながら即時的に話すことができる。  
【表現の能力】
- 現在分詞や過去分詞の後置修飾、間接疑問文などの言語材料を含む英作文を読むことができる。  
【理解の能力】
- 新出言語材料の現在分詞や過去分詞の後置修飾、間接疑問文を正しく使える。  
【言語や文化についての知識・理解】

4 単元計画 (全10時間)

関心・意欲・態度【関】 理解【理】 表現【表】 知識・理解【知】

次	時	学習活動・内容	ねらいと手だて	評価基準
一	1 ①	<p>1 活動全体の活動の流れを把握し、課題を知る。</p> <p>(1) JTE と ALT の対話を聞き、都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論することを確認する。</p> <p>都市と田舎の生活のどちらがいいか議論しよう。</p>	<p>都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論する活動への興味・関心を高め、内容や英語の表現についての自分の課題を明確にすることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の方向性をつかめるように、ALT を交えて都市と田舎の生活を比較する話をする。</li> </ul>	<p>本活動の内容を認識し、表現したい事柄を書くことができている。(関：ワークシート)</p>
二	1 ④  2 ④	<p>2 現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料や、相手の意見を受けてから発言する表現を学習し、様々なテーマで議論をしながら即時的な表現を練習する。</p> <p>(1) 現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を理解し、都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論する時に使える英文を作る。</p> <p>(2) 教科書を読み取り、相手の意見を受けてから発言する表現を学習する。</p> <p>(3) 新出言語材料や相手の意見を受けてから発言する表現を使って、制服登校か私服登校か、給食かお弁当か、といったテーマで議論をする。</p>	<p>都市と田舎の生活のどちらの方がいいかを、現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を用いて表現できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出言語材料を学ぶ際は、都市と田舎の生活のどちらの方がいいかの議論に繋がるように、関わりのある英文を提示する。</li> <li>・教科書の内容と議論する時に使う表現が繋がるように、学習形態を工夫しながら何度も音読する。</li> <li>・即時的に話すことに慣れさせるために、英語で言えなかった内容を言い換えて表現する方法を全体で共有しながら議論をする。</li> </ul>	<p>新出言語材料を理解できているか。(知：学習プリント)</p> <p>教科書の本文の内容を理解できているか。(理：本文学習プリント)</p>
三	1 ②	<p>3 都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論する。</p> <p>(1) グループで都市と田舎の生活のどちらの方がいいか議論を行う。</p> <p>最初は英語で何といったら分からなかったけれど、それを簡単な英語に言い換えるのが楽しかった。言葉に詰まった時につなぐ言葉を上手に使えるようになりたい。</p>	<p>都市と田舎の生活のどちらの方がいいか、即時的に話して議論できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議論の質を高めるために、終わった後に話した内容を書き出す場を設定し、それを繰り返して回数を重ねる。</li> </ul>	<p>自分の意見や考えを即時的に話すことができているか。(表：ビデオ)</p>

5 本時 平成30年11月9日(金) 第5校時 第3学年8組教室 第3次の1時(10/10)

6 本時の主眼

都市と田舎の生活について自分の意見を理由や根拠をもとに話すことができる。

7 振り返り活動を仕組む授業づくりの工夫点

これまでに授業で議論をする練習をし、そこで「小さな振り返り活動」を行い、自分が言えなかったことの英語表現や、相手の意見を受けてから発言する表現を書きためておく。終末段階において、単元全体の振り返りをしてできるようになったことや、今後さらにできるようになりたいことなどの記述による「大きな振り返り活動」を行う。

8 準備 パソコン、タブレット、学習プリント

9 本時の過程

関心・意欲・態度【関】 理解【理】 表現【表】 知識・理解【知】

	学習活動・内容	具体的な手だて	評価の観点(方法)	形態	配時
つかむ	1 今回の単元では都市と田舎の生活のどちらがよいかを議論することを振り返る。 2 めあてを確認する。	○ これまでの学習との繋がりを意識させるために、単元の最初にした ALT と JTE の会話を思い出させる。		一斉	5
	都市と田舎の生活のどちらがよい理由をつけて意見を言って議論しよう。			一斉	
さぐる・深める	3 グループで都市と田舎の生活のどちらがよいかを議論する。 ・ We can go shopping easily in big city. ・ In small town, we can live with nature.	○ 話す内容を充実したものにするため、前時に紙上でのディスカッションを行う。	都市と田舎の生活のどちらがよいか相手が納得できるように話すことができるか。 【表】(ビデオ)	グループ	15
まとめる	4 話した内容をプリントに書き出し、英語で言えなかった内容を確認してから、再度議論を行う。	○ 議論をより深いものにするために、終わった後に話した内容を書き出す場を設定し、それを繰り返して回数を重ねる。		個	20
振り返る	5 単元全体の中で、できるようになったことやこれからできるようになりたいこと等を振り返る。 ・ 相手の意見に同意しながら自分の意見を言えるようになった。 ・ 過去分詞を使った文章がまだまだ上手く使えないので、練習したい。	○ 単元全体を通した振り返りができるように、単元を通した振り返りシートを用いる。			10